

- 基本目標1

こどもも大人も、豊かに学び、自分らしく健やかに暮らせるまち
- 基本目標2

地域で互いに支え合い、誰もが安全で安心して住み続けられるまち
- 基本目標3

経済が循環し、にぎわいや交流が増え、市民一人ひとりが活躍するまち
- 基本目標4

ひとと自然が共生し、持続可能で豊かな暮らしができるまち

No	意見箇所	委員名	意見内容	検討・対応結果
1	目指すまちの姿 (前文)	稲村委員	● 目指すまちの姿の前文に、主産業である観光や産業振興に関する内容がない。人口減少を抑えるためには、地域を支える産業や地域に人を集めるということが重要である。市の観光における売上額の7割8割が旅館の売上であり、伊豆長岡温泉自体は伊豆で3番目の規模を持つ温泉街でもあることから、温泉の魅力にもふれてほしい。	● 目指すまちの姿の前文について、市の特徴にかかる部分の記載を充実します。
2		今井委員	● 自然環境や温泉などの様々な資源がある中で、前文では「歴史のまち」でくられてしまっているのもう少しひも解いてもいいのではないかと。 ● 目指すまちの姿の前文では、「市民や各種団体、企業、行政などの多様な主体がともに手を取り合い」とあるが、基本目標の中ではその記載がない。基本目標でも官民連携のような言葉があったらよいと思う。	● 目指すまちの姿の前文について、市の特徴にかかる部分の記載を充実します。 ● 第3次総合計画の最終的な目的である目指すまちの姿の前文に記載していることから、目的を達成するために掲げる基本目標では記載しません。
3		菊地委員	● 伊豆の国市における地勢的な優位性を強く活かすという表現が見えると良いと感じた。	● 目指すまちの姿の前文に、伊豆の国市の地勢的な特徴を追記します。
4		谷津委員	● 目指すまちの姿の前文でウェルビーイングという言葉が出てくるが、基本計画における横断的な視点では、SDGsの推進を取り上げている。ウェルビーイングとSDGsは似ているが別物なので、この違いが気になる。	● SDGsの17ゴールの実現がウェルビーイングの実現につながると考えており、SDGsは、基本計画において、横断的な視点に記載するとともに「私たちのまちにとってのSDGs-導入のためのガイドライン-」をもとに、各政策分野との関連付けを予定しています。
5		菊地委員	● 目指すまちの姿が少し消極的だと感じる。この後の基本目標のほうで書かれているのかもしれないが、歴史を息づかせるため、誰もが幸せに暮らせるまちにするために、どうすべきかをちりばめた方がいいのではないかと。	● まちの姿の実現に向けた具体的な手段は、具体的な内容となる基本計画で示します。
6	目指すまちの姿 (キャッチフレーズ)	小泉会長	● キャッチフレーズの長さとしてはこの程度の長さが字数的に限界だと思うので、文字を修正することもそうだが、前文で内容を示すということもあると思う。	● 目指すまちの姿はそのままとし、前文の内容を充実します。
7		石川委員	● 「歴史が息づき」が強くなりすぎている気がしている。「誰もが幸せに暮らせるまち」につなげるためには、3町が1つになってというところにもう少し触れたほうがいいのではないかと。	● 令和7年度には3町合併から20年が経過すること、令和7年4月1日には市民憲章を制定すること、記載することで逆に3町であったことを意識してしまうことを鑑み、3町にかかる内容は記載しないものとします。
8		菊地委員	● 読点の使い方について、「未来にわたり、誰もが幸せに暮らせるまち」は読点を削り、誰もが幸せに暮らせるまちが未来に当たるという意味合いにしたほうが入りやすいのではないかと。	● 「誰もが幸せに暮らせるまち」とつながっていることを明確にするため、「、」を削ります。
9		佐野委員	● 目指すまちの姿については、少し尖った言葉を使って特徴づけたものにするということも方法としてはあると思うが、総合計画は幅広いところを想定しなければならないので、基本目標をある程度尖ったものにしていくという構成が良いのではないかと。 ● 一方でSDGsの推進やDXの推進がある中で、DXの推進が少し薄いと感じたので、その部分を含めてはどうか。	● 総合計画はまちづくりにおける市の最上位計画のため、広く全体をとらえられるよう、目指すまちの姿はこのままとします。伊豆の国市の特徴は、基本的な方針である総合計画の中で最も具体的な内容となる基本計画で示します。 ● DXの推進は、基本計画において、横断的な視点に記載します。
10		松下委員	● 目指すまちの姿において、文末に「伊豆の国市」とあるので、これが伊豆の国市の目指すまちの姿であることはわかるが、あまり特徴がないと感じる。伊豆の国市の強みや特徴をもう少し混ぜてもいいのではないかと。	● 目指すまちの姿はそのままとし、前文の内容を充実します。 ● まちの姿の実現に向けた具体的な手段は、具体的な内容となる基本計画で示します。
11	基本目標1	中野委員	● 基本目標1の説明文で、「こどもたちの笑顔は周りを幸せにする力を持っています」という一文があるが、この部分をもう少し別の部分に使えないかと。 ● 「多様な保育ニーズに応える」の部分は、子育てのニーズは保育だけではないので、単にニーズだけでもいいのではないかと。 ● こどもも豊かな人生を送ることができ、親になった人たちも自分の人生を豊かに送れるという視点を入れると、包括的な子育て支援になると思う。	● 基本目標1の記載はそのまま残します。 ● 保育に限定するものでなく多様なニーズであることを示すため、「保育ニーズ」を「ニーズ」に修正します。 ● 親の視点も取り入れるため、「こどもも親も自分らしい生き方を選択できる」の記載を追記します。
12		飯田委員	● 基本目標1の説明文では、スポーツに関することが「芸術文化やスポーツを通じて」と簡単にまとめられているが、スポーツは、身体を丈夫にして医療費を削減したり、観光と連携して観光客を呼んだり、いろいろな分野と関わってくると思うので、この後の落とし込み（基本計画）では考えてほしい。	● スポーツを通じた健康づくりや他分野との連携といった具体的な取組は、基本計画に記載します。

令和6年度 第2回総合計画審議会（令和7年2月27日開催）
第3次総合計画の骨子及び基本構想の素案に対する意見及び検討・対応結果一覧

- 基本目標1 こどもも大人も、豊かに学び、自分らしく健やかに暮らせるまち
- 基本目標2 地域で互いに支え合い、誰もが安全で安心して住み続けられるまち
- 基本目標3 経済が循環し、にぎわいや交流が増え、市民一人ひとりが活躍するまち
- 基本目標4 ひとと自然が共生し、持続可能で豊かな暮らしができるまち

	意見箇所	委員名	意見内容	検討・対応結果
13	基本目標2	土屋委員	・ 基本目標2の説明文に、「地域防災力の向上」とあるが、自助・共助は、市民と企業・事業所の意味ではないか。「地域防災力（市民・企業）の向上」としてほしい。	・ 自助・共助は、自分自身や家族、地域、コミュニティ、地域の事業所など、公的機関以外の様々な主体における助け合いのことを指していることが分かるよう、主体を追記します。
14		堀江委員	・ 防災においては、近所での助け合い、共助の部分が薄れていると感じる。基本目標2の説明文において、「地域防災力の向上や治水対策をはじめとして、ソフト・ハードの両面から災害対策を強化します」とあるが、ハードは予算もあるので、ソフト面ではもう少し自助力や共助といった言葉を織り込んでほしい。	・ 自助・共助をより意識できるよう、表記を修正します。
15	基本目標3	小泉会長	・ 基本目標3の説明文で、「地域で稼いだお金が地域で使われ、地域で豊かさが巡る」とあるが、「地域で」の繰り返しが多い、後段は単に「豊かさが巡る」でも伝わると思う。	・ 繰り返し使用している「地域で」の記載を削除します。
16		浅井委員	・ 基本目標3の説明文で、「地域で稼いだお金が地域で使われ」という表現がある。もちろんこれはありがたいが、観光や畜農産物の購入という面では、市外県外国外で稼いだお金も地域で落としてもらいたいという思いがあるので、それを感じられる表現にしてもらいたい。	・ 助詞を「地域で」から「地域が」に修正します。
17		土屋委員	・ 基本目標3の説明文に、「中小企業・小規模事業者の持続的な成長」とあるが、「中小企業・小規模事業者の持続的な発展」ではないか。また、事業継承・空き店舗対策にもふれてほしい。 ・ 「観光・シティブロモーション分野」を「観光・交流人口や関係人口・シティブロモーション分野」にできないか。また、説明文にも交流人口や関係人口を増やす記述を入れてほしい。シティブロモーション分野の説明として、地域連携による魅力発信を行う旨を追記すべき。	・ 文章の表記を見直し、中小企業・小規模事業者のそれぞれの成長ステージに応じた支援に表記を修正します。また、空き店舗対策などの具体的な手段については、具体的な内容となる基本計画の中で示します。 ・ 関係人口については、目標を達成するための手段として基本計画の中で示します。
18		室伏委員	・ 商工・雇用、農業、観光、市民活躍分野も重要で、経済が成長していけるよう、働きがいを感じることができるような手立てを講じる必要があると感じる。	・ 多様な人材が活躍できる就労環境の支援は、基本計画において、商工・雇用分野に記載します。
19		佐野委員	・ 将来人口の推計において、人口減少を抑制していくとしているが、基本目標を達成すれば人口減少が抑制されるのかと考えると少し弱いと感じる。事業承継やスタートアップの支援といったような切り口を今後盛り込んでいくことが必要でないか。	・ 経営の承継と確信の支援を含んでいることがわかるよう、事業者支援と担い手支援の文章を修正します。また、産業間の連携に関する文章を追加します。また、より具体的な内容は、基本計画で記載します。
20	計画の将来フレーム	飯田委員	・ 土地利用では、高齢化により所有者がなくなり、空き地となる土地が増えているので、そういった土地も何とかしていく方法も考えてはどうか。	・ 空き家・空き地対策は、基本計画において、まちなみ形成分野に記載します。
21		岩田委員	・ 将来推計において、グラフを見ると、人口が減少していくことは分かるが、市民のみなさまに見ていただく上で、基本目標を達成すればここまで人口は減らないという希望的観測の数字を掲載することはできないのか。	・ 将来人口の推計は、令和7年3月に策定した人口ビジョンに準拠しています。人口ビジョンでは、2023年4月に公表された国立社会保障・人口問題研究所による「日本の将来人口推計（令和5年推計）」や、最新の人口推移を踏まえて人口を推計しています。人口減少に対応したまちづくりを進めるためには、現実的な見込みに沿って今後の目指すべき将来の方向性を決めることが重要と考えます。
22		小野委員	・ 土地利用構想において、産業・業務立地拠点に既存工場用地を追加するとなっているが、魅力ある土地は道路が整備されていることも重要だと思うので、その点も追加したら良いのではと思う。	・ 道路や工業用地については、土地利用区分別の基本方針において、方針を示します。
23	基本計画 （横断的な視点）	室伏委員	・ SDGsの推進は世界共通の目標である。目標の達成につながるよう、重要で必要な方針を整理・細分化して目標に落とし込めると良いと思う。 ・ これからの時代におけるDXの必要性を痛感している。デジタル技術により、社会や生活の形を変えること、新たな価値を生み出すことが重要と捉えている。	・ SDGs、DXの推進は、基本計画において、横断的な視点に記載します。